

# 第38回日本認知症学会学術集会2019年11月7日シンポジウム10が開催されました

座長: 内海久美子(砂川市立病院精神科) 内田陽子(群馬大学大学院保健学研究科)

## テーマ: 認知症ケアチームの現状と成果、地域連携

### 1. 認知症ケア加算による病院への成果 一病院最高責任者及び医師としての役割一

医療法人大誠会内田病院 田中志子

### 2. ケアミックス型の中規模病院における認知症サポートチーム

公益財団法人脳血管研究所附属美原記念病院 高橋陽子

### 3. 急性期病院における認知症ケアチームの現状と成果

砂川市立病院認知症疾患医療センター 福田智子

### 4. 認知症ケア加算2の現状と成果、地域との連携へ

富岡地域医療企業団公立七日市病院 齊田綾子

認知症ケア加算が診療報酬に新設されて数年が経ちました。現場ではどんな成果があり、どんな課題があるのか、そして、病院だけではなく地域へどうつなぐのかについて、それぞれの立場からシンポジストに発言いただきました。

田中先生には、病院最高管理者及びチームの医師として、病院一丸となつての取り組みや身体拘束やACPIについて積極的に取り組んでいること

高橋さんは、看護部長として現場の看護師からの評価を行い、今後のチームの改革を行っていくこと

福田さんは、チームのリーダーとして、急性期病院の専門看護師や認定看護師との連携をも深め、タイムリーに関わり成果をあげていること

齊田さんは、加算2として各病棟の看護師との連携を深め、身体拘束率の低下等、徐々に成果をあげていること、地域に出向きつなげようとしていることについてお話いただきました。

会場からも主治医をどう巻き込んでいくか、効果効率的な回診の方法、病棟と外来との連携法、社会福祉士の役割、僻地である地域をどう巻き込んでいくか等、積極的な質疑応答が行われました。

今後の加算の効果的な運用には、病棟だけでなく病院全体での柔軟なケア実践、そして、地域の特性を踏まえてその地域全体が認知症ケアをどう充実させていくかが鍵となると考えます。

\* ケアに関するシンポジウムを設定していただいた日本認知症学会に深く感謝いたします 内田陽子